

多様なメンバーと特色ある活動
それぞれのサロンの概要や活動内
容について教えてください。

狩野 (敬称略、以下同) ICT4Dとは「ICT(デジタル技術) for Development(国際開発)」のこと。国際協力とテクノロジーに興味を持つ人が集まるサロンです。毎週日曜に勉強会を開催する他、Stack(スラック)で意見交換したり情報をシェアしたり、単発のプロジェクトを行うことも。国際協力とテクノロジーという異なる分野に興味を持つということから、社会経験があるメンバーが多いですが、学生さん多いです。
田才 2018年10月の立ち上げ

サロンという コミュニティ

座談会

オンライン 新たな

というハードルを設けることで、私も安心して情報提供がしやすくなります。

竹内 IT業界で国際協力に興味がある人は少数派。関心を持って、会社の中ではなかなか語る場がありません。今こそイノベーションやDX(デジタルトランスフォーメーション)っていう言葉を、国際協力の場でも当たり前に耳にしますが、少数派が語れる場をつくりたいという思いを持っていました。

また自身の経験からもICTと国際協力、両方がわかる人が必要だと思っていて、両方の業界の人が交流する場にできるんじゃないかな

以来、国際協力を軸に幅広くいろいろなことをやっています。20代をメインに学生4割、社会人6割くらい。国際協力の仕事をしている人、民間企業で働く人などさまざまです。週1、2回のペースで勉強会を開き、国際協力の仕事をしている方を招いて話を聞いたりしています。国際協力における手法の一つであるプロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)や持続可能な開発目標(SDGs)などをテーマに、ワークショップ、読書会も活発。メンバーがそれぞれ自発的にイベントを企画することも多いです。

横山 AI-HUB自体は201

の人とつながる方法は多様だ。

オンラインサロンがある。

サロン主宰者たちに話を聞いた。

情報社会の今、自身の関心領域

その一つに

国際協力に関連する三つの



9年のスタートですが、始まりはAfrica Quest.comという「アフリカに挑戦する日本人を応援しよう」というウェブメディアになります。オンラインサロンは国際協力でもビジネスでも旅行でもアウトでも、アフリカが絡んでいれば何でもアリです。メンバーは50人前後で30代が中心。SNSでの情報共有や勉強会、オンライン飲み会などもします。ピッチコンテストとしてメンバーからアイデアを応募し、皆で投票し、実行を応援するというのもしています。

サロンを立ち上げたきっかけや目的はどのようなものでしたか。

田才 コロナ禍前は特に、国際協力のイベントは東京に集中し、地方にいたと情報を得られないという問題がありました。オンラインのコミュニティがあれば、住んでいる場所に関係なく情報を得られるかなと思いつきました。また、私自身が英国にいて「日本の情報が入ってこないな」と思っていたこともありました。

横山 私にとつてのきっかけは、アフリカでは一人で戦っている人

スで言い合えるんです。クロースドなコミュニティで、かつみんな一定の同じような思いを持っているからこそ、オープンで交わされているのとは、明らかに質の違う議論ができています。

横山 我々の場合はAfrica Quest.comというウェブメディアを運営し、アフリカビジネスラボというイベントを企画し、その次がこのAI-HUBの開設となりました。メディアで情報を届けて、ラボで学びを提供し、そこからアフリカに興味を持った人をさらに前に押し進めるための場としてオンラインサロンがあります。情報発信から始めて必要性を突き詰めていったらコミュニティをつくるのに行き着きました。

オンラインサロンで生まれた新たな価値とは何でしょうか。

田才 メンバーにとって「横で頑張る人が常にいる」というのが最大の価値ではないでしょうか。うちのサロンは若い人が多いですが、地方の大学生は周りに国際協力のキャリアを目指す人がいなくて、どうしても途中で心が折れやすい。



【国際協力キャリアガイド】
編集長
田中 信行

が非常に多いと感じたこと。自分が青年海外協力隊としてケニアに赴任した時、任地で周りに頼れる相談相手がいなくて外部の人とながらる機会が少なかったことに悩んだというのもありました。オンラインのコミュニティがあれば地域問わずに参加ができ、どこからでもアフリカを盛り上げられる。挑戦中にくじけてしまう人だつて減らせるんじゃないかと思っただけです。

情報発信と双方向の交流が可能に

横山 もう一つは、メディアを運営しているといういろいろな問い合わせが来るんです。中には匿名で情報だけ欲しい人もいます。必要な情報を信頼できる人に提供するための線引きとして、コミュニティをつくったというのがありますね。情報提供を受けたい人に対し、それならばサロンに入会してほしい

参加者



国際協力サロン
主宰
田才 諒哉さん



ICT4D Lab
主宰
狩野 剛さん



ICT4D Lab
主宰
竹内 知成さん



AI-HUB
主宰
横山 裕司さん

たとえ直接会ったことはなくても、サロンメンバーが頑張っていたら、勇気ももらい自分も頑張ろうと思えますから。

横山 これから何かに挑戦したい人の中には、どこから何にアクセスすればいいのかわからない人もいます。かといってリアルコミュニティにいきなり入ると「きみ、誰？」ってなることもあります。オンラインだとそうしたハードルが低く、すぐに仲良くなれる。さらに「AI-HUBに入った」というステップを踏むことで、同窓生や同郷のような感覚が生まれ、別のコミュニティにもすんなり入っていけるようになるん



アートで環境問題を啓発するイベント：国際協力サロン

ですね。リアルなコミュニティに入る前の入り口としても、オンラインサロンは使えると思います。

狩野 勉強会を毎週やっています。理由はメンバーにプレゼンを通じたアウトプットの場をつくりたかったから。自分の思いや考えを言葉にして人に伝えることで、考えが整理されたり、頭の中のモヤモヤが形になったりしますよね。

竹内 最初は「メンバーのために」と思って、勉強会も含めサロンを運営していったんです。でも実際には我々が得るものの方が大きいんです。今、マンチェスター大学の教授が書いたICT4Dの分厚い教科書を翻訳するプロジェクトを進めていて、なんと出版までこぎ着けました（2022年2月出版予定）。一人では絶対にできなかったものが、サロン内で背中を押してくれる人、一緒に取り組んでくれる人がいた結果です。

サロンを立ち上げたことで「想定外」のメリットもありましたか。

田才 仕事が見つかる人が多いですね。転職する人が自分の後任にメンバーを紹介したり、同じ組

織のインターンを紹介したり。勉強会などで、その人のことを知っているから、紹介しやすいんですよね。この人はこういうキャリアを築きたいんだとか、こういう分野に強いとか。

狩野 キャリア形成に役に立つというのがありますね。特にICT4Dというのはマニアックで、情報が集まる場がなかったんです。そこに「こんな求人情報があるよ」とメンバー同士でSNSに載せたりもするので。

予想外といえば研究プロジェクトもあります。平和構築にテクノロジーを活かす「Peace Tech」というテーマと「ICT人材の育成」というテーマで国際開発学会で発表しました。ここまですべて来られるとは予想外でした。

横山 予想外といえば、コロナ禍の去年3月にアフリカ数カ国とオンラインでつないで、現地の状況や今後どう生きていくかなどシェアできたのは良かったです。

「組織」ではないからできること。今後やってみたい活動は何ですか。

田才 今準備しているのは

ることで、民間企業や政府だけではできないことをしていきたい。オンラインサロンという自由さをうまく活かしたいと思っています。

竹内 ICTと国際協力にはまだまだ隔たりがあります。両方をわかる人、業界を橋渡しができる人を輩出していきたいですね。

横山 将来的にはアフリカに拠点をもちたいですね。サロンメンバーが無料で利用できるワーキングスペースや宿泊所などを作り、何かに挑戦していけたら面白い。

最後に、国際協力に興味・関心を持つ読者に一言をお願いします。

竹内 国際協力がわからなくても



アフリカに関するゲストを呼んでのイベント：AI-HUB

まず行動してみることでですね。サロンも最初は10人ほどでおっかなびっくり始めたけれど、学会発表もできたり、翻訳、出版もできるまでに。興味があることがあれば、悩むよりもやってみてほしい。

横山 私もそう思います。コロナ禍だからと何もしないのではなく、今だからこそできることもあるし、今準備しておけば将来的な活動につながりもする。社会はどんどん多様化しています。取りあえず飛び込めば、そこに新しい出会いや学びがあるはずですよ。

田才 「キャリアをどうしたいかわからない」という人は、取りあえずこの三つのサロンのどれかに入ってみては。ともかく一歩は踏み出せまじし、入る前には得られなかった人のつながりや情報が必ずありますから。

狩野 転職などの大きな決断をしなくても、サロンという場なら国際協力の世界が自分に合っているかどうかを取りあえず試せます。自分が向いているのか、何を目指したいのか、それを確かめる「自分探し」の場としてもサロンは意義深いと思いますよ。

国際協力サロン

2018年10月に発足し、国際協力について学び「面白いことを社会に生み出しながら世界を良くしたい」という思いを持った仲間がつながるコミュニティ。国際協力を仕事にする人や仕事にしたい人、興味を持つ人など、多彩なバックグラウンドを持つ約180人のメンバーが参加する（6月時点）。ゲスト講師を招き、「国際協力」を軸にオンラインで勉強会やワークショップを定期的で開催する。他にもイベント企画、アジアやアフリカへのフィールドワークなども実施。SDGsの次の時代を見据え、世界のあるべき姿を探る活動を行っている。



ICT4D Lab

「ICT for Development（デジタル技術と国際開発）」に興味を持つ人のコミュニティ。2019年10月に約10人でスタートし、現在は約70人が参加する（6月時点）。主な活動内容は毎週日曜の勉強会や交流会、ブログ投稿、Podcast、イベント企画など。メンバーが自分のやりたいテーマを持ち込み「ICT4D教科書翻訳」「ノーコード」「PeaceTech」「新興国ビジネス」など幅広いトピックのグループを形成。ICT4Dに関する最新動向を共有し、世界各国の産官学にまたがる仲間と語り合いながらアクションを起こし、キャリア形成にもつなげる。



AI-HUB

(Africa Quest Innovation Hub)

日本最大のアフリカWebメディア「Africa Quest.com」が提供するオンラインコミュニティ。2019年6月に発足し、30代中心に参加メンバーは約50人（6月時点）。ビジネスや国際協力、旅行、ダンス、音楽など目的を問わず、アフリカが好きで、興味のある人が集まり「アフリカに挑戦する日本人」を応援する。オフライン・オンラインで開催される勉強会や交流会を通じ、情報やネットワークを得られる他、自分がアフリカで挑戦したいプロジェクトをメンバーと共に実践したり、メンバーが挑戦するビジネスを応援したりすることもできる。



ICTと国際協力を考える公開勉強会：ICT4D Lab

「Beyond SDGs」という企画です。SDGsを2030年までに達成するにはどうすればいいのかわからない世代ができるアクションを考え、実際に行動に移します。まずはSDGsについて学び、ワークショップを重ねて、最終的にはうちのサロンとしてのアクションプランを作り、国際協力業界に提示したいです。サロンには国連や国際協力機構（JICA）、NGO、民間企業、学生など多様な人がいますが、組織の一員としてではなく、個人として達成したい国際協力のビジョンを突き詰めることができます。多様な人が集ま

国際協力 2021-22

キャリアガイド

International Cooperation Career Guidebook

新たな形をデザインする

担い手紹介

国際機関
国際開発金融機関
中央省庁
政府系機関
開発コンサルティング企業
国際協力NGO/NPO
民間企業
キャリアアップ制度
大学・大学院
他多数

JICA職員×開発コンサルタント×NGO職員

キャリアとプライベートの両立

子育て座談会